メールニュース　2026年　4月29日付　NO.26119

気軽にお散歩

＜広島県・尾道市因島＞　村上水軍の歴史を展示する日本唯一の水軍城

因島水軍城を訪ねる

穏やかな海に囲まれた島々を見渡す瀬戸内海国立公園。尾道市の向島を越えて訪ねた因島は、暖かい陽射しと風に冬の訪れを忘れてしまうような土地柄で、自然豊かな海の青と島々の緑に囲まれた海辺は風光明媚そのもの。この因島の古い歴史にある瀬戸内海の水軍、村上水軍の貴重な資料を展示している「因島水軍城」を散策してみた。

村上水軍の歴史

村上水軍は、南北朝時代から室町・戦国時代に海上の航路にのぞむ島々や沿海の要衝に砦を築き、中世において瀬戸内海上に大きな勢力を誇示するようになりました。村上水軍のたくましい生活に対する意欲、独立自尊の精神、自由を求める気概、荒波を乗り越えて進む勇気は日本の歴史を一つの原動力でした。

この因島を基点とする因島村上家は中世瀬戸内海の中心にあって11万４千５百石余を領有した海の大名であり、数百年にわたり瀬戸内海の制海を握り、幾多の合戦に参加したほか、遣明船の使節たちの警護も行っていました。因島村上氏６代当主の村上新蔵人吉充は、１５７６年７月の木津川口海戦で毛利警護船団の一翼を担い、織田信長率いる織田水軍を壊滅させ、毛利氏の勝利に大きく貢献したことは有名です。

因島村上水軍絵巻

水軍城資料館には５枚の大きな水軍絵巻が飾られていて、村上水軍の歴史が一目でわかるように工夫されている。順にたどると、今から６５０年前の南北朝時代に、南朝方の天皇であった長慶天皇の命で信濃国から瀬戸内海に入った北畠顕成が村上氏の家督を継ぎ、村上師清と改名、その後、因島を支配していた北朝方の今岡通任を因島土生町の釣島・箱崎の戦いで破り、島の近くを航行する船を監視、臨戦態勢に備えるため、二十四の城を築きました。村上水軍は海外貿易においても、遠くは東南アジアまで赴き、瀬戸内海の海上交通の支配者、そして海外貿易の商人の側面を持ち、栄えたようです。館内には因島村上氏が残した武具や遺品、貴重な古文書なども展示されている。因島を訪れた際には、ぜひ、訪ねてほしい。

「海員だより」